

## 好調なインド経済、4年連続7%超の成長予測

### ◆2017年のインドのGDP成長率は7.6%と4年連続7%超の見通し

インド経済が好調だ。IMF（国際通貨基金）が2016年10月に発表した経済見通しでは、16年のインドの実質GDP成長率見通しは7.6%、17年も同じく7.6%の成長が予測されており、4年連続で7%台の成長が見込まれている。

インド経済好調の背景としては、原油価格が低位安定しているためインフレが鎮静化している点がある。10月の消費者物価指数は前年比4.2%と、インド準備銀行が目標とする6%を大きく下回っている。このため、インド準備銀行は16年に入ってから2回利下げを行っており、16ヵ月連続で新車販売台数が前年比増となるなど個人消費の増加に繋がっている。

また、灌漑設備が整っていないインドでは、夏のモンスーン期の雨量が収穫量を左右し、人口の7割が居住する農村部の個人消費に影響を与えるが、16年は過去2年に比べて雨量が多かったこともインド経済に好材料となっている。

### ◆2017年の注目はGST導入、インド準備銀行の新総裁の手腕も注目

17年のインドの注目点は、全国統一の物品・サービス税（GST: Goods and Services Tax）の導入だ。州ごとに異なる複雑な間接税をGSTに統一する法案は16年8月に可決され、17年4月に導入が予定されている。世界銀行が発表した「Doing Business 2016」では、インドの納税手続きのしやすさは世界189カ国中157位と下位にある。GSTが導入されビジネス環境が改善されれば、海外からの投資増加の追い風となり、インド経済の中長期的な成長を後押しすることとなる。もっともGSTの導入については、必要なITシステム構築の遅れなども指摘されており、予定通りに導入されるのか注目される。

17年はインド準備銀行新総裁のパテル氏の金融政策にも注目だ。前任のラジャン氏は、銀行の不良債権処理を進めるなど改革派として金融市場からの信頼も厚かった一方で、インフレ警戒のため利下げには慎重であった。パテル氏は現政権と関係が深いことから、景気刺激のために利下げを進めるとみられており、インフレと景気のバランスに配慮した金融政策が期待される。 【今村弘史】